

卒業論文の要旨

論文題目	外国につながる児童の持つ複数の文化・言語を価値づける活動とは ～小学校における日本語学習支援の実践から～
氏名	田村明希子
メジャー	言語教育
(要旨) 近年、日本では日本語指導が必要な子どもが増加傾向（文部科学省 2023）にあり、そのような子どもたちに向けた充実した支援が求められている。本研究では、2023 年度から 2024 年度にかけて、横浜市内の小学校において実施した外国につながる児童たちを対象とした対面での日本語学習支援サービスラーニング（Service-Learning）活動をもとに、その実践の成果と課題について考察分析を行った。 支援に参加した小学校は、横浜市内でも特に外国につながる児童が多く在籍している。日本語学習の経験がないまま、突然転入してくる児童も含まれ、在籍学級の授業についていくことが困難な児童が少なくない。言語文化的に多様な背景をもつ児童生徒がそれぞれの力を発揮できる環境を整えるため、同小学校では大学生等の外部支援者を積極的に受け入れている。 筆者もこの活動に参加し、一日の支援で外国につながる児童 1 人または 2 人に対して取り出し支援、または、入り込み支援を行った。それぞれの支援では、担当している児童が安心して学び、楽しく学校生活を送れる環境を整えることを目的として、活動した。活動では、「トランスランゲージング教育論」（櫻井 2023）を参考に、児童の持っている言語レパトリーを活用することを通して、担当児童が学校生活に自信をもって取り組めるよう支援することを心掛けた。 しかし、日本語環境の強い在籍学級だけでは、児童の持っている多様な言語・文化を価値づける支援を充分に行うことは難しいと感じていた。そこで、「●からはじまることば」という児童が知っている日本語や母語などを黒板に書いてもらうゲームイベントを考案し、小学校の国際教室で 3 回実行した。本実践で筆者は、ゲームの最後に振り返りの時間を取り入れ、児童が黒板に日本語や母語で言葉を書けたことに対して褒めることを意識して行ったところ、回数を重ねるたびにゲームを楽しみながら、母語や日本語を積極的に使おうとする様子が見られ、取り上げる言葉の数も増えていった。また、ゲーム終了時には毎回児童たちに笑顔が見られ、その表情から自信も感じられた。 外国につながる児童の持っている力を発揮できる活動は、「褒められ経験」や「成功体験」の積み重ねが重要であり、それらを意識することで児童の学校生活の自信につなげることが可能になるのではないだろうか。 (指導教員の推薦のコメント) 文化的言語的に多様な背景をもつ児童生徒は、言語的マイノリティであることから学校での学習活動で周縁化されやすい傾向がある。本卒業サービスラーニングプロジェクトは、こうした学びからの周縁化を防ぐために約 1 年半に渡り小学校の先生方と対話を重ね、協働して取り組んだ大変意欲的な実践研究である。特に、「トランスランゲージング教育論」（Garcia et al. 2017）に基づき、子どもたちの母語・母文化を価値づけることを目的として行った中休みの活動は、子どもたちのもつすべての言語資源を活用した有意義な取組で、子どもたちのマルチリンガル・アイデンティティを育む上で、重要な役割を果たしたといえるだろう。	